環境システム研究 Vol.21 1993年8月

(38) 小学校校歌にみる福岡の環境イメージ

STUDY ON THE ENVIRONMENTAL IMAGE REFLECTED IN PRIMARY SCHOOL SONGS

石川貴士**,中園眞人*,内田唯史**,岩本慎二*,浮田正夫*
Takashi ISHIKAWA**,Mahito NAKAZONO*,Tadashi UCHIDA**,Shinji IWAMOTO*,Masao UKITA*

ABSTRACT; The purpose of this study is to clear the environmental image of Fukuoka district by analyzing the song of 139 primary schools in Fukuoka city. The main words which represent the landscape are the proper nouns of mountain, sea and river.The arrangements of these words are classified into some types, and there are cross relationships between the location of school and the landscape appearing in the song. The scenes of landscape in the song express the environmental characteristics original and important for the place.

KEYWORDS; landscape, environmental image, song of primary schools

1. はじめに

人間が生まれ育ち、生活する場の環境は、心象風景として記憶され、日々の生活の中で無意識的にあるいは意識的に人間の感性に作用する。人間の感性に強く訴えかける環境は、風景画に描かれ、詩歌に詠まれ、あるいは祈りの対象ともなっている。特に詩に詠まれた環境は、風景のみでなく音や光・風・月等の多様な環境が包含され、人間の五感を通してとらえられた環境イメージの投影である。これまで絵画や詩歌を対象とした研究例は多いが（参考文献２～７等）、本論では小学校校歌を対象として、福岡の象徴的環境イメージを明らかにする事を目的とする。ここで、小学校校歌を対象とする理由は以下の２点である。

１）児童に伝えるべき普遍性のある地域の象徴的環境が抽出され、簡潔に表現されている。従って、個人が一般に詠む詩、和歌、俳句に比べ、個人的な生活感情よりもその地域に定着した環境イメージが抽出されるという特徴を有している。こうした視点からの研究例としては参考文献１がある。

２）小学校は、中学、高校よりも学区が小さく、立地する場の環境の固有性が歌に反映されており、広域的に共有する環境イメージとともに、狭域的イメージを把握できる。

2. 研究方法

2.1 福岡市の概要（図－１）

本研究で対象とする福岡市は九州の北部に位置し、面積336km²、人口約120万の政令指定都市である。北は玄海灘、博多湾、今津湾に面し、東部には三郡山地、南部には筑紫山地、西部には背振山地が走り、多々良川、御笠川、那珂川、樋井川、室見川などが北流している。気候は年平均気温16.0℃、年降雨量1690mmと、温暖で比較的雨は少ない。また、閉鎖型の湾岸形態で、海を眺望しても対岸側が見渡せるという特徴を持つ

*山口大学工学部社会建設工学科 Department of Civil Engineering,Yamaguchi University
**山口大学大学院工学研究科 Graduate Student,Department of Civil Engineering,Yamaguchi University

ている。

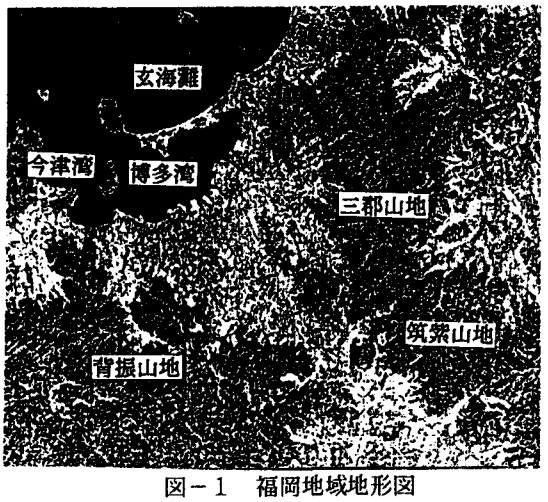
2.2 解析方法

福岡市内の小学校139校の校歌を対象として、まず地域環境として歌われている場所の出現頻度を調べた。次いで、その場所についての何が歌われているのか、その対象となっている内容を分析し、数量化理論を用いて歌詞の類型化を行った。最後に類型毎に視点場との関係を含め代表的な歌詞を記載した。

3. 研究結果

3.1 校歌に歌われた場と頻度

校歌の歌詞の中から環境要素と考えられるもの全てを抽出した（表－１）。全体で390箇所あり、大分類でみると山の出現頻度が113（29.0%）と最も高く、次いで海92（23.6%）、川56（14.4%）、自然一般43（11.0%）、平野32（8.2%）、史跡31（7.9%）、町並17（4.4%）の順となっている。中分類では小学校に対し北あるいは西に位置する背振山地が68と最も多く、次いで多いのは海の玄海灘（42）、博多湾（36）である。これらは視覚的に認知されやすい特徴をもつといえる。小分類でも玄海（26）、背振山（18）、油山（16）、立花山（10）、玄海灘（10）などの出現頻度が高い。なお、表－１-Bの自然一般の小分類は場が特定できないこと、町並み、史跡、その他の小分類は出現頻度の低いものが多いことより、数を省略した。これより、小学校校歌に歌われた福岡市の環境イメージは、背振山、油山などが連なる背振山地および立花山などが連なる三郡山地に囲まれ、玄海灘、



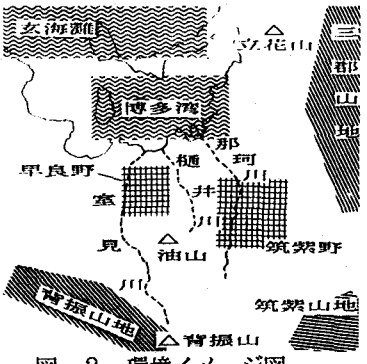
図－１　福岡地域地形図

表－１-A　歌われた場と頻度

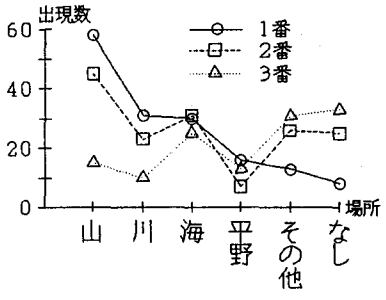
大分類	中分類	小分類
山 (113)	三郡山地 (27)	若杉山(4) 立花山(10) 宝満山(3) 原田山(1) 乙金山(1) 諸岡山(1) かまど山(1)
		総称(6)
	背振山地 (68)	背振山(18) 油山(16) 荒平山(2) 飯盛山(3) 叶岳(1) 高祖山(2)
		総称(26)
	筑紫山地 (5)	総称(5)
	その他 (13)	鴻巣山(3) 犬津山(4) 愛宕山(2) 思沙門山(1) 和子岳(1) 霊山(1) 紅葉山(1)
川 (56)	多々良川(5) 御笠川(6) 那珂川(12) 樋井川(10) 室見川(15)	
	その他 (8)	八丁川(2) 早良川(2) 名柄川(1) 七隅川(2) 瑞梅寺川(1)
海 (92)	玄海灘 (42)	玄海灘(10) 玄海(26) 海(5) その他(1)
	博多湾 (36)	博多湾(7) 博多港(2) 百道(3) 那の津(1) 香椎干潟(5) 大名干潟(1) 西島崎(1) 荒津崎(2) 海中道(3) 美野島(1) 長浜岸(1) 箱崎松原(1) その他(7)
	今津湾 (10)	生の松原(4) その他(6)
	島 (4)	志賀島(2) 玄海島(1) 灯台(1)
平野 (32)	筑紫野(20) 早良野(12)	

表－1-B　歌われた場と頻度

大分類	小分類
自然 (43)	野原,花,すすき,稲,麦,道,並木,森,丘,松,桜,梅,紅葉,榎
街並 (17)	瓦,団地,工場,空港,街,里
史跡 (31)	歴史,遺跡,大井堰,下原,御田の跡処,潮煮塚,宗湛,防塁,大壕,荒平城,名島城,舞鶴城香椎宮,箱崎八幡宮,聖福寺住吉神社,櫛田神社,
その他 (6)	野多目池,野間大池玉橋,曲淵ダム



図－2　環境イメージ図



図－3　曲順毎の出現頻度

博多湾が北に面し、それに挟まれて筑紫野、早良野が広がり、そこを室見川、那珂川、樋井川が流れているという構造を持つ事がわかる（図－2）。

3.2　小学校の位置と校歌に歌われた場との関係

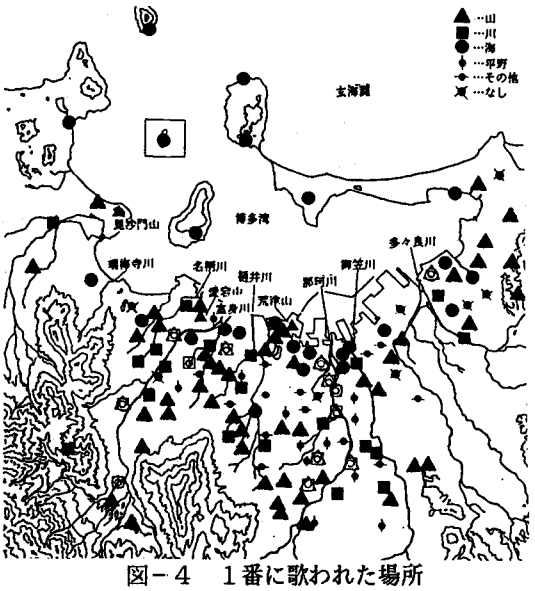
ここでは小分類まで場が特定できない自然一般および出現頻度が低い町並、史跡、その他を「その他」と総称し、山、川、海、平野、その他の場所が、校歌の中でどの程度出現しているかを曲順別にみた（図－3）。なお、校歌が2番までしかない学校（15校）は2番まで、4番、5番まである学校（4番までが 4校、5番までが 1校）は3番までに出現する場所を入れた。また、曲目中に2つ以上出現する場合は全ての数をカウントした。まず1番では山の出現数が58と最も多く、続いて川（31）、海（30）、平野（16）の順である。2番でも山の出現数が45で最も多いが、次いで海（31）、その他（26）、なし（25）となっており、さらに3番ではなし（33）、その他（31）、海（25）の出現数が多い。これより、その学校との距離や視界との関連から山、川、海など象徴性の高い順に曲中に歌われている事がわかる。特に海については1番から3番に至るまで安定して出現し、玄海灘・博多湾などの海が身近な存在であることを示している。そこで、歌われた場と小学校の位置との関係を調べるため、校歌の中から1番のみを抽出し、その中で出現する場所を小学校の位置にプロットした（図－4）。山が歌われた小学校は、山地あるいはそのふもとに位置するものが多く、海岸線付近の小学校例も付近に荒津山、愛宕山など小さな山があるものが多い。川を歌っている学校も河口から上流に至る河川域付近、海を歌っている学校も博多湾に面した海岸線付近が大半で、また平野を歌っている学校も平野中央部に位置するものが多い。このように、校歌で歌われている場所と、学校の位置との関係が曲順に影響を及ぼしていることがわかる。

3.3　校歌に歌われた場の情景

ここではまず歌われた場所が特定できる山、川、海、平野について、対象を中分類毎にみた（表－2）。次に歌われた場について、対象として描かれた情景を分析するため、各対象を変数とした数量化Ⅲ類分析を行い（図－5）、得られたⅠ軸とⅡ軸のスコアを用いクラスター分析で各場所毎に歌詞を4グループに類型化し（図－6）、各類型の特徴をまとめた（図－7）。なお、「その他、なし」は数量化Ⅲ類以降は分析から除外している。

(1)　山の情景

山で歌われた情景は、最も高度の大きい背振山地で「雲」（36.8%）、見晴らしのよい山として親しまれている三郡山地、筑紫山地で「光」（40.7%）、その他の山で「緑」（38.5%）が多い。これは背振山地に雲がかかるほど高い山が多いこと、三郡山地、筑紫山地が東に見える小学校では、朝日がそれらの山から昇ること、その他の山が山地と違い独立して小学校の近くに存在するため、木々の様子などが鮮明に見えるた



図－4　1番に歌われた場所

表－2　歌われた情景

（単位：％）

対象 / 山	光（太陽、輝く）	動植物	風	雲	空	緑（紫）	聳える	その他、なし
背振山地	17.6	8.8	5.9	36.8	8.8	16.2	5.9	25.0
三郡山地	40.7	7.4	11.1	25.9	7.4	25.9	3.7	18.5
筑紫山地	40.0	-	-	-	20.0	20.0	20.0	20.0
その他山	23.1	15.4	7.7	-	7.7	38.5	7.7	-

対象 / 川	光（太陽、輝く）	動植物	流れ	波	清い	豊か	水面	その他、なし
那珂川	16.7	-	58.3	8.3	50.0	8.3	8.3	25.0
多々良川	20.0	20.0	80.0	20.0	60.0	20.0	-	-
室身川	26.7	26.7	60.0	13.3	33.3	13.3	13.3	6.7
御笠川	16.7	-	50.0	-	50.0	16.7	16.7	16.7
樋井川	30.0	40.0	40.0	40.0	20.0	-	-	20.0
その他川	12.5	25.0	25.0	-	50.0	-	12.5	25.0

対象 / 海	光（太陽、輝く）	動植物	風	波	香り	音	潮	その他、なし
玄海灘	19.0	4.8	21.4	19.0	16.7	33.3	40.5	11.9
博多湾	13.9	22.2	19.4	27.8	13.9	11.1	13.9	22.2
今津湾	-	20.0	10.0	10.0	-	-	-	80.0
島	25.0	50.0	-	-	25.0	-	-	25.0

対象 / 平野	光（太陽、輝く）	動植物	土	広く	空	緑（紫）	その他、なし
筑紫野	35.0	10.0	15.0	15.0	20.0	25.0	10.0
早良野	25.0	25.0	58.3	16.7	8.3	8.3	-

めと思われる。

数量化Ⅲ類分析では、Ⅰ軸の＋側に動植物（スコア値0.2271）、風（0.0874）、緑（0.0734）など視角の低い語、－側に空（-0.0696）、そびえる（-0.0684）、雲（-0.0647）、光（-0.0531）など視角の高い語が作用しているので「視角軸」と解釈した。Ⅱ軸は＋側に緑（0.1485）、光（0.0402）など歌われた場を形容する際に用いられる語、－側に動植物（-0.1570）といった山全体を形容しているのではなく、木や鳥など山の一部を歌った語が作用しているので「形容軸」と解釈した。クラスター分析による類型の特徴をみると、MCL1はその背景としての雲＋空（＋光＋そびえる）が多く歌われている（「明るい空に聳え立ち白雲を呼ぶ油山」（七隈小））。MCL2は朝日を代表とする光が多く歌われている（「朝日に映える背振山」（春吉小））。MCL3は生息する木々や小鳥などの、動植物＋風が多く歌われている（「飯盛山の朝風に桜の花の香をのせて」（壱岐小））。MCL4は山に映える緑が多く歌われている（「愛宕山映える緑よ」（愛宕小））。

(2)　川の情景

川で歌われた情景はどれも「流れ」、「清い」が多い。樋井川で「動植物」（40.0%）の割合が高いのは、水辺に自生する葦を歌ったものが多いためである。なお、「豊か」「水面」は出現数が少ないため、後の分析では除外した。数量化Ⅲ類では、Ⅰ軸は＋側に動植物（0.1482）、光（0.14778）、波（0.1162）など水辺や水面を歌った語、－側に清い（-0.1092）、流れ（-0.0628）といった一般的にみられる語が作用しているので「一般軸」と解釈した。Ⅱ軸は＋側に動植物（0.2304）といった水辺ではあるが川自体を歌っていない語、－側に波（-0.1855）、光（-0.1072）など川を形容した語が作用しているので「形容軸」と解釈した。類型の特徴をみると、RCL1は校歌の中で最も多く定型的な、清い＋流れが多く歌われている（「那珂川の清い流れに育まれ」（宮竹小））。RCL2は室見川での白魚、樋井川での葦といった、動植物＋流れが多く歌われている（「樋井の流れに葦の芽の伸び行く力逞ましく」（西花畑小））。またRCL3は水面に反射する、光＋波＋流れ＋清い＋動植物が多く歌われている（「室見の流れ透き通り白魚の群れ光る波」（室見小））。RCL4は白

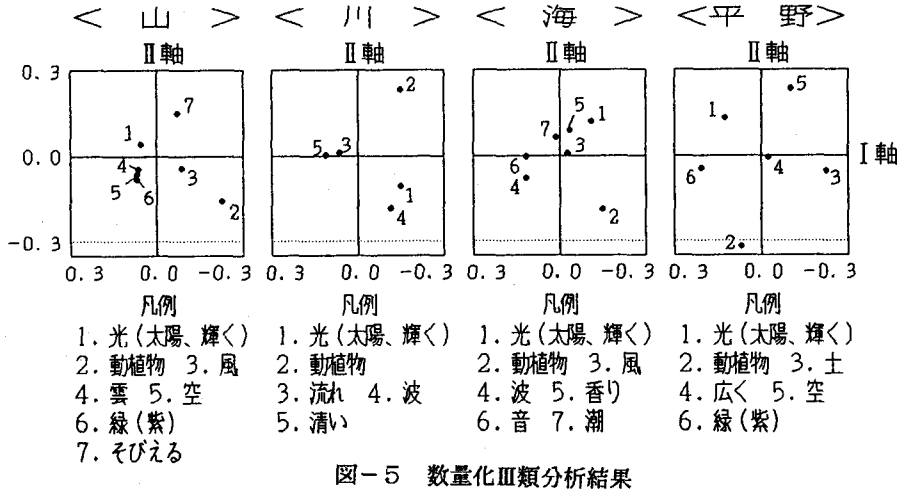
魚や葦などの、動植物のみが歌われている（「葦の若芽の樋井川よ」（鳥飼小））。

(3) 海の情景

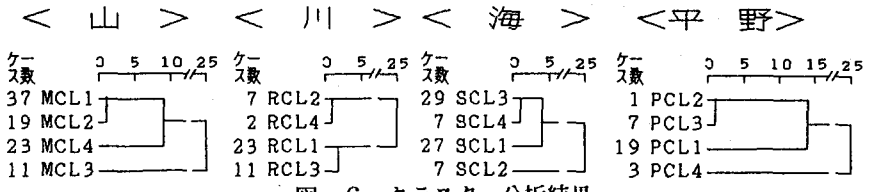
海で歌われた情景は、玄海灘で「潮」（40.5%）、「音」（33.3%）、博多湾で「波」（27.8%）、今津湾で渚や港街等の「その他、なし」（80.0%）、島で「動植物」（50.0%）の割合が高い。これは玄海灘の潮の荒さや響き、博多湾の海岸に打ち寄せる波、今津湾の海岸線、島に訪れる渡り鳥や樹木を歌ったものが多いためである。数量化Ⅲ類では、Ⅰ軸は＋側に動植物（0.1490）、光（0.1085）など陸や岸辺を歌った語、－側に音（-0.1155）、波（-0.1148）など遠くを歌った語が作用しているので「距離軸」と解釈した。Ⅱ軸は＋側に光（0.1195）、香り（0.0876）、潮（0.0607）など人が五感で感じられる語、－側に動植物（-0.1886）、波（-0.0794）など単に目で見た語が作用しているので「感覚軸」と解釈した。類型別に特徴をみると、SCL1は荒波や轟きなどで海の力強さを表現した、波＋音が多く歌われている（「波高らかに玄海の響きつたえて」（鷺固小））。SCL2は飛び魚や松など海辺特有の動植物が多く歌われている（「飛び魚跳ねる百道の浜の松のみどり」（百道小））。SCL3は海に反射した朝日や、風によって運ばれる潮の香りを歌った、光＋潮＋香り（＋風）が多い（「朝日に映える香椎潟潮の香りの」（香椎浜小））。SCL4は海から吹く風を受けとめる松を歌った動植物＋風が多い（「青海原を渡り来る風にも負けぬ磯の松荒津の崎の松に似て」（福浜小））。

(4) 平野の情景

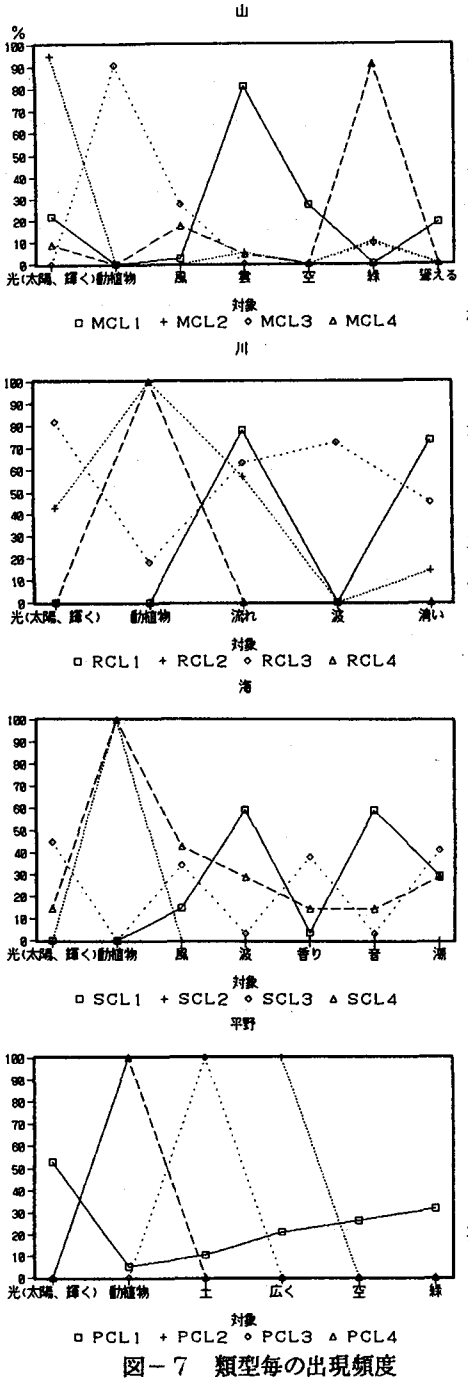
平野で歌われた情景は、筑紫野で「光」（35.0%）、早良野で「土」（58.3%）の割合が高い。これは筑紫野に光が溢れる様子、早良野で拓けた大地を歌ったものが多いためである。数量化Ⅲ類では、Ⅰ軸は＋側に土（0.2240）、空（0.1024）など広さに関係する語、－側に緑（-0.2077）、光（-0.1264）など広さに関係しない語が作用しているので「範囲軸」と解釈した。Ⅱ軸は＋側に空（0.2338）、光（0.1301）などの一般的な名詞、－側に動植物（-0.3204）といった稲穂や蛍などの固有な名詞が作用しているので「名詞軸」と解釈した。類型の特徴をみると、PCL1は平野に光が溢れている様子を表現した光＋緑が多い（「筑紫野に光溢れて逞ましく伸び行く緑」（堤小））。PCL2は１歌詞のみのグループで、あたり一面に生育した稲穂が風



図－５ 数量化Ⅲ類分析結果



図－６ クラスター分析結果



図－7　類型毎の出現頻度

でなびく様子が歌われている、動植物＋土＋広くである（「広がる大地早良野に稲穂をわたる風さやか」（田村小））。またPCL3は水田などの拓けた大地を歌った土が多い（「美田うるおす筑紫野や」（日佐小））。PCL4は蛍や若草などの動植物が歌われている（「蛍とびかう早良野に」（四箇田小））

3.4　視点場と情景

ここでは、歌われた場所を人がどのように見ているかを分析するため、まず視点場との関わりが深い語を抽出した（表－3）。なお、川および平野は出現数が少ないので省略する。「近い」、「遠い」など距離に関する語が山で 113曲中 9曲、海で92曲中15曲、「仰ぐ」や「望む」など眺望した語が山で 6曲、海で 2曲、それらを組み合わせた山での「はるか＋仰ぐ」、海での「はるか＋眺め」がそれぞれ 2曲ずつ存在した。次にそれらの項目と前章の類型との組み合わせをみた。典型例を以下に示す。

山；①近い＊MCL4…「緑綾なす鴻の巣の山懐の育みに」（西高宮小）
緑鮮やかな木々が成長していく様子を、近くに見る情景がうかがえる。

②遠い＊MCL1…「背振山窓辺はるかに勇ましく雲湧きおこる」（大楠小）
背振山の力強さを、遠くに見ている様子がうかがえる。

③仰ぐ＊MCL2…「朝日に映える立花に峰を仰いで」（奈多小）
朝日に映し出される山の姿を見上げる様子がうかがえる。

④はるか＋仰ぐ＊MCL1…「はるかに仰ぐ背振山わきたつ雲は虹となり」（大池小）
山にかかる雲や美しい虹を彼方に見上げている様子がうかがえ、遠くに見ることで③に比べ、山だけでなく周囲の情景も歌われている。

海；①近い＊SCL1…「打ち寄せる波の穂先よ博多湾」（内浜小）
海の近くに学校が位置し、岸辺で波先が渦巻く様子を身近に見ている。

②近い＊SCL4…「潮逆巻く玄海の荒磯のほとり松青く不断のひびきなる所」（北崎小）
海に近いため、磯に波がぶつかる音が絶え間なく聞こえる様子がうかがえる。

③遠い＊SCL1…「響きは遠し玄海の」（別府小）
海との距離は遠く、①②のように身近に見ることはできないが、かすかに波音が聞こえてくる様子がうかがえる。

④望む＊SCL3…「望む博多の海原に光きらめく星のかげ」（住吉小）
海が反射する星の光で輝くのを見ている様子がうかがえる。

⑤はるか＋眺め＊SCL3…「夕日に映える香椎潟眺めはるか丘の上で」（香椎下原小）
夕日が映った海を丘の上から眺望している様子がうかがえる。

表－３　視点場と情景の関係

山	MCL1	MCL2	MCL3	MCL4	合計
近い	-	-	1	3	4
遠い	4	-	1	-	5
仰ぐ	2	3	-	1	6
はるか＋仰ぐ	2	-	-	-	2
合計	8	3	2	4	17

海	SCL1	SCL2	SCL3	SCL4	合計
近い	5	-	1	2	8
遠い	5	-	2	-	7
望む	-	1	1	-	2
はるか＋眺め	-	-	2	-	2
合計	10	1	6	2	19

4.まとめ

1）校歌は、教育の場で集団で歌われるため定型化された場が多く表現され、福岡市の校歌の場合にも環境イメージとして山、海、川、平野の出現率が高く、小学校の北あるいは西に位置する背振山地や玄海灘、博多湾が代表的である。

2）学校との距離や視界との関連において、山、川、海などの場所が象徴性の高い順に、曲中に登場する傾向がみられた。特に１番目においては、山地付近に存在する小学校では山、河川付近の小学校では川、海岸線付近の小学校では海が歌われている。

3）山では背振山地で雲、三郡山地・筑紫山地で光、その他の山で緑が歌われ、山と学校の位置との関連がみられた。また川ではどれも清い流れ、海では玄海灘で潮や音、博多湾で波や光、平野では筑紫野で光、早良野で土が歌われる割合が高く、人々のそれぞれの場での、印象の深い体験を反映した歌詞となっている。これらはまた我々が大切にしなければならないそれぞれの場の景観の特性をよく表しているといえる。

今後の課題として、地域環境を規定する地形、気候、都市化度等の異なる地域を対象に、気候や季節を含めた環境と感性との関係について検討する事が重要である。

＜参考文献＞

1)北原理雄：校歌に謳われた都市の景観構造に関する研究、日本都市計画学会学術研究論　文集PP.673～678,1990

2)荻島哲、大貝彰、金俊栄、岩尾襄、菅原辰幸：19世紀ヨーロッパ風景絵画にみる都市景　観に関する研究、日本建築学会計画系論文報告集PP83～93,1990

3)須藤拓、樋口忠彦、玉川英則：近世以前の水墨画にみる水辺の景観構成について、日本　都市計画学会学術研究論文集PP.667～672,1990

4)曲田清維：学校教育における都市教育の歴史的研究、日本都市計画学会学術研究論文集　PP.517～522,1989

5)若山滋：「枕草子」における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集PP89～95,1990

6)若山滋、藤原隆：「古今和歌集」と「新古今和歌集」における建築空間、日本建築学会　計画系論文報告集PP141～147,1989

7)小林亨：音響景観の把握と鑑賞に関する基礎的研究、日本都市計画学会学術研究論文集　PP.439～444,1988